

3-3 流水の正常な機能と環境への影響：6000万³

前提：正常流量＝維持水量＋水利流量

- ※「正常流量」＝流水の正常な機能を維持するために必要な流量
- ※「維持水量」＝河川環境、河川利用の観点から最低限維持すべき流量
- ※「水利流量」＝水利に必要な流量

≪筒井保博氏講演：「豊川における流水の正常な機能の維持について」≫
※国土交通省中部地方整備局河川部河川環境課長

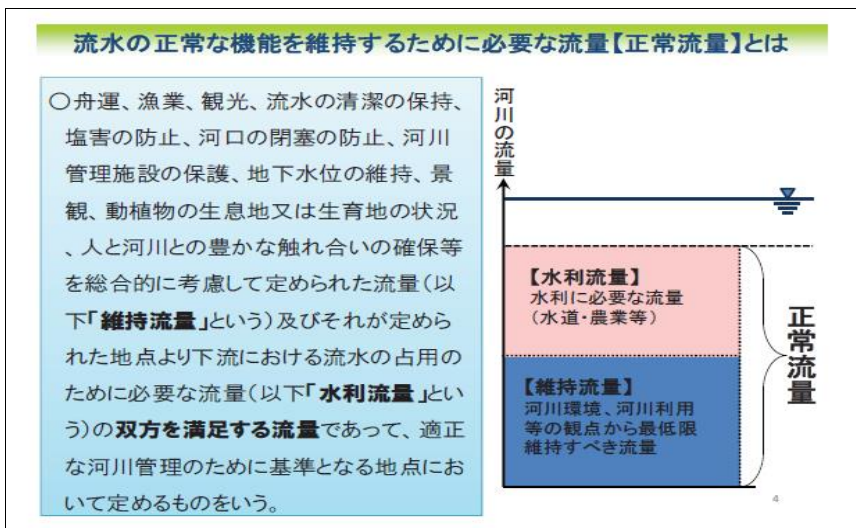
(1) 流水の正常な機能の維持



流水の正常な機能って

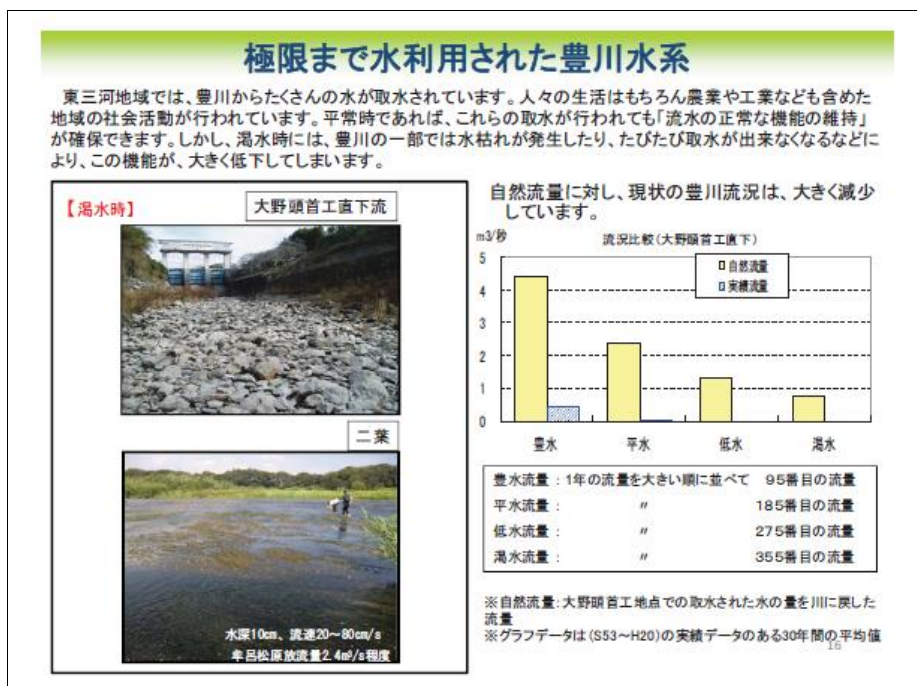
川の流水はもともと、様々な役割を果たしています。
飲料水や農業用水を供給する他、魚や動植物など自然環境が育まれたり、船などによって物を運んだり、人々の心を癒すなどの役割です。
この役割、機能のことを、専門的には「流水の正常な機能」と呼んでいます。





(2) 豊川での「流水の正常な機能維持」の必要性

○豊川は、極限まで利用されており、瀬切れが起きている。



○そこで、流水の正常な機能を維持するには、寒峡川頭首工直下で 3.3 m³/s、大野頭首工直下で 1.3 m³/s、牟呂松原頭首工直下で 5 m³/sの流量が必要である。

【注】豊橋市上水道の下条取水上では、平成 25 年大渇水時に、牟呂松原頭首工直下で 5 m³/s を下回り、それに大潮が重なり、塩分濃度が高まって取水制限をした。

○これにより、既水利権に関しては、これまでの実績利水安全度 1/4 から、大島ダム等既設の利水施設と連携して計画利水安全度 1/10 へ向上する。



◀森誠一氏講演：「豊川におけるネコギギの実態とダムの負荷影響」▶

※岐阜経済大学地域連携推進センター教授

(1) 伊勢湾三河湾流入河川水系は、多様な生物相を示す日本のヘソである。



(2) 豊川の生物多様性

○豊川には、ネコギギなど貴重な生物種があり、豊かな生物多様性を維持している。ネコギギの減少を防ぐには、ネコギギの生息に必要な階層的な環境項目の実現が必要となる。